

(別紙3)

大学紛争中の入学試験

大学にとって入学試験は大きな事業である。昭和44年度の入学試験は、紛争によって無念にも中止した大学があったが、本学では総長の強い意志で「万難を排して入学試験は実施する」と決められた。よって紛争中の入学試験の状況を詳しく語ることにします。

44年2月11日に本部松下会館が封鎖される時は、事前に必要書類は北浜の適塾に移した。

願書の受付が2月1日から始まり、その処理は旧理学部の教室で行い、3月3日入学試験当日は入試本部を医学部の会議室に設置。試験場は入学試験運営委員の教官が、紛争の軽少な園田女子大学・大阪工業大学・大阪教育大学等を借りるよう奔走され、一部は学内の施設を使用することになった。また試験問題紙も銀行の金庫を借りて保管し、そこから各試験場に当日の朝搬送した。

当日は早朝から大雪となったので気象情報に神経を使い、道路事情の悪さに搬送担当者は難儀をした。また交通機関の渋滞で受験生が揃わないので、試験時間の繰り下げ措置を取られるなど大変であった。

学外で試験場を担当された学部も、大雪の中での試験事務所、試験監督教官の手配り等に苦慮された。試験場には府警機動隊が警備に当たってくれたので、全闘委とのトラブルもあまりなく試験が実施できた。

答案の採点がまた大変な作業で、採点場を学外で内密で探さなければならず、事務局長が北浜の清友会社長に懇願されて、そのレストランを昼間だけの約束で借りてこられた。ここでは試験科目の半分が採点された。またここは食事をするを前提で貸してくれているので、採点委員と警備や世話の事務職員は昼食を、また宿直職員には夜・朝食共にレストランのランチを食べるという有り難いおまけが付いた。答案はレストランの倉庫に格納し数名で宿直をした。この様なことは今までにないことであった。

(ちなみに半分の試験科目の採点は、某社ビルの会議室で行われ弁当が出された)

合格者発表は全て郵送にして、この年度の入学試験を無事終えた。このような状態であったから、この年の卒業式(卒業証書授与)は各学部で、入学式は大阪厚生年金会館を借りて実施された。

45年度の入学試験は慎重な措置をとって、入試本部を豊中キャンパスの附属図書館内に置き、全闘委の動きが把握でき即座に対応できたので、多少のデモがあっても支障なく無事試験が実施できた。

採点場は学部、研究所等の会議室を借り、合格者発表は不測の事態を考慮して、本部大講堂の二階窓からボードに貼って吊して発表した。

この頃には合否判定資料作成も合理化されていて、採点データは全てコンピュータ化され外部の計算機会社に委託していたので、合格者判定資料の仕上がりは早まり、教授会での判定会議の決定も早くなって、合格者発表が今までより早いので受験生から喜ばれた。

この紛争後は願書の受付を、学部の職員にも応援してもらうようになったが、2年後には願書の受付と合格者発表は、各学部で行うように変わった。

入試関係者全員に弁当が支給されるようになったのも、この紛争からである。

正常化に伴い答案の採点と保管は、本部松下会館で平常通りにできたが、試験問題の保管だけは慎重を期して、数年の間は某銀行に保管を依頼した。

以上